



わいわいトーク「ワイヤークラフト」
スマホ置き場のグッドアイデア!!

(2017・8・18)

Index

- とびらの写真 (ワイヤークラフト) 1
- 巻頭言 「パソコンと私」 (前 雅子) 2
- APIS 報告 「CAP ワークショップ」 3
- APIS 報告 講師派遣：かわち野福社会 (朴 宗筈) 3
- APIS 報告 「都島区民まつり」 (横山 恵子) 4
- APIS 報告 「薬物を使わない生活の羅針盤を受講して」 (野中ひとみ) 5
- 本の紹介 「幕末」 (前 雅子) 5
- 会員からの報告 「体罰をみんなで考えるネットワーク夏の集いに参加して」 (比敷 恵) 6
- 活動記録 8

Freedom・大阪ダルク連続講座～薬物を使わない生活の羅針盤～を受講して

2017年8月～10月 全6回
大淀コミュニティセンター



全6回講座のうち、残すところあと1回になった。内容は、ダルクの方々がクリーン（薬物を使っていないこと）である日々における楽しみと辛さを語り、刑事施設や保健福祉センターの職員から支援者として必要な視点や援助の方法についてのお話、そしてセクシャルマイノリティーの方の薬物体験談、大学教授から自己感情の扱い方についてのワークショップだった。

中でも、セクシャルマイノリティーの方のお話は、心を薬物と愛とセックスで赤裸々に語られたのが印象的だった。

「喪失感や不安感によって感情のコントロールができなくなる」「人の体温を感じる時、愛情の深さを感じる」「薬とセックスで不安が麻痺した」「闇から闇へ、快楽から快楽へ、そして生活は破綻した」と。

「薬で快楽を得ても心の繋がりは作れなかった」という。留置場へ迎えに来てくれたお母さまが、毎日の朝ご飯を用意してくれるようになったこと、その後ダルクで仲間ができたことで現在はクリーンを続けられているという。

「今、クリーンなのは寂しくないから」と話された。

私は、薬物を使った理由やきっかけを知りたくて、薬物中毒回復者の方のお話をよく聞きに行く。なぜなら、シンナー中毒で命を落とした友人の人生を思うから。

薬物を使う使わない差っていったい何だろう。

連続講座の第一回目で、薬物を使ってしまったのは環境や育てられ方に原因はあると思うか質問した。答えは、親のせいだなんてこれっぽっちも思っていないということだった。薬物を手に取る瞬間に、理由なんてないのだろう。だから、自分とは別の世界の話でないということだ。

そして、愛する人がいるから、愛してくれる人がいるから、仲間がいるから、クリーンになれたということはわかった。

(野中ひとみ)

